

～ Serving the *Community* and Supporting the *YMCA* since 1976 ～



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

今月の国際テーマ : *Endowment Fund (EF 海外運動拡張基金)*

2023年
1月



今年度クラブテーマ「地域と繋がろう・地域を知ろう・地域に知られよう」



陽射し眩しいゲレンデでソリ滑りを楽しむ雪遊びキャンプの子ども達（浦和YMCA提供・本文参照）

世界YMCA同盟制作 Vision 2030のスライドより。世界の若者、日本の若者が本気で地球社会の未来を自分ごとにし始めた。ワイズの立ち位置や如何？（本文参照）



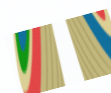
Pillar 1
Community Wellbeing Goals Summary

- Prioritise staff and volunteers' wellbeing**
Change policies, procedures and practices to create an internal culture where mental health is truly supported. Internal
- Build "body, mind and spirit" safe spaces**
Create programmes which support the harmonious development of young people and communities when it comes to their physical, spiritual and mental health. Community
- Keep young people safe from harm**
Champion improved policies and practices that keep children and young people safe from harm, abuse and neglect. Advocacy

8

1月「虎兎ぶき」例会のお知らせ

日時：1月28日（土）午後2時～4時
会場：き咲きてらす（浦和区木崎3-6-6）
プログラム：楽しく議論しましょう
*ズームで他クラブとの交流も検討中



年末年始家族で泊まった御殿場YMCA同盟の東山荘の黙想館に東海大創立者 松前重義翁 直筆の色紙発見。常連はご存知。いつも正面大窓の富士山しか見なかった私には新鮮な発見。旧約聖書詩篇121篇から。（浅羽）

◆ 1月夜談会 メモ



1月夜談会を16日の晩、いつもの青蓮で開催した。今回はかつて世田谷クラブメンバーだった宮原邦博氏と東京YMCAの長期会員の新井克己氏が参加してくれた。宮原氏は埼玉クラブの歌声集会にも何回か参加していて伊藤メンをはじめ皆顔見知り。新井氏は浅羽とは結構古い付き合いで、一緒にYMCA論をよく議論し、ご自身も地域活動を文京区内で続けておられる。6人集まり活発に議論した。浅羽会長としては今後「ジェンダー」について話し合いたいと提案。気がついたら9時を回っていた。店長に店の前で写真を撮ってもらった。一昨年12月に初めて足を運んだ「青蓮」の店長にも議論好き仲間を覚えられたようだ。お疲れ様でした。(浅羽 記) ❖

MEMBERS' ESSAYS

YM式「年末年始パーティ」に臨んで

浅羽俊一郎



昨年暮れに初めてYMCA 東山荘で毎年開催されている「年末年始パーティ」に私たち夫婦、息子夫妻と孫、息子の妻のご両親と計7名で参加した。

プログラムを見ると何やら色々な企画が詰まっている。私たちは全員初参加だったので要領がよく分からなかったが、無理に全部参加する必要もないと教えられちょっと安心。またよく見ると顔見知りも数人おり、ホッとした。埼玉クラブで長い間活動し昨年度末で退会された小峰理孝さんとばったり再会したのは特に嬉しかった。お元気そうでなにより。

3歳になりたての孫は凧づくりや、餅つきもさることながら、広々とした自然環境と見知らぬ人たちの楽しげな様子にキョロキョロ。私たち夫婦はツインの個室だったが、後の5人は6人部屋。大人たち

は難渋したが、孫は2段ベッドのはしごが面白いらしく、大人が止めても上がったりがったり下がりたり。

私は早朝ウォークに参加。森田館長自ら皆をリードし、途中で老人川柳を披露して笑わせた。そのうち知り合いもでき、おしゃべりが弾む。「焚き火バー」では夕富士を望みながらホットワインとラクレットを味わい、真夜中の小さな懇親会では人生の思い出を語り合えた。夫婦で試しに参加したピラティス体操は大変だった。パラグアイの琴アルパの生奏、戦下の子ども達(第二次大戦のポーランド児童・今のウクライナ児童)の並列作品展などいい企画だと思った。初日の出は早起き連中がしっかり確認。

スタッフの自然なサービスも嬉しかったが、心を開いた参加者たちが自然と醸し出した和やかな雰囲気、昔ながらのYMCAを見た。流石にディズニーワールドもこれには太刀打ちできまい。❖



小峰理孝元ワイズと再会



アルパ演奏後歓談する菅原ふみ氏



初夕陽と御殿場市の夕景をホットワインで味わ

“YMCA Vision 2030”

(その2)

前回は4本柱となるテーマから「1. 健全な地域社会」を紹介したが、これら4テーマがどれも共通する3つの局面を通過することを意識していることに後から気がついた。それぞれがゴールを設定する。3つの局面とは

- 1局面：YMCAの職場で実践する。即ち、他人を諭す前に自ら実践して証明しよう。
- 2局面：地域社会や周りの若者のニーズに対応しよう。それを踏まえて、
- 3局面：地域住民や若者に代わって彼らの主張を広くあらゆるレベルで支持しよう。

確かに先月号に転載した(1)健全な地域社会についてもYMCA内、地域とユース、そして子供や若者の安全な環境作りの提言だった。

今回の2本目の柱「働き甲斐を持てる就労環境」も通過すべき3局面とゴールを明記している。

- 1局面：YMCA職員に働き甲斐のある仕事を提供し生涯学習の機会を与える。
- 2局面：若者や地域住民に働く機会が増える職能訓練、技能実習を提供する。
- 3局面：適正で働き甲斐をもてる就労政策を求める若者・住民の声を広く拡散する。

ユース・エンパワメントにしても日本のYMCAと欧米や途上国のYMCAとでは、向いている方向がどこか違うように感じる。一部の若者に社会活動の体験の場を提供するのと、若者とともに歩むというのではやはり実践する内容が違ってくる。地道に若者と向き合う会員や地域のボランティアを発掘し育成していく必要があると思う。「ユース・アクション」事業はワイズとYMCAにとってとても斬新な取り組みだが、それを通して若者とメンが日常的に接する機会がほしい。

この後の(3)持続可能な地球(4)正義ある世界のゴールについては次号に。(浅羽 記)



<1月の聖句>

「どうか平和の主ご自身が、どんな時にも、どんな場合にも、あなたがたに平和を与えて下さいますように。どうか、主があなたがたすべてとともにいて下さいますように。」

(テサロニケ人への手第二 3章16節)

YMCAの小窓から



* 浦和YMCAの活動を支えよう!

2023年1月7日、8日に新潟県南魚沼市にて「みんな集まれ雪あそびキャンプ」を実施いたしました。浦和・川越クローバークラス、浦和たんぼぼに在籍している10名の子どもたちが参加をし、宿泊施設はこれまでも何度もお世話になっている大峰館を利用させていただきました。

キャンプでは2日間の雪あそびと1日目の夜にはタレントショーを行いました。参加メンバーの中には初めて雪を見るというメンバーも数人おり、「ちょっと心配…」というメンバーもいれば「たのしみ!」というメンバーもいましたが、グレンデに行き、そり遊びや雪だるまづくりをしているときには、全員雪まみれになりながらとても楽しそうに遊んでいました。そり遊びの際に、こわくてなかなか滑りだせないメンバーに、他のメンバーたちが「がんばれ!」「下でリーダーが待っているから大丈夫だよ!」などと声をかけて励ましている場面もありました。



雪の中で子ども達の笑顔が輝く2日間となりました。(浦和YMCAスタッフ 水上真帆氏 記) ❖

📱 仲間からののお便り

◆ 塀和光二郎メン（俳号 愚道）今月の俳句

① 年賀状一言だけでものを言い

ただおめでとうだけではなく一言近況など手書きで書いてあるといろいろ伝わりますね。

② 初夢や見るのは過去のことばかり

ほとんど川柳ですがこの年齢になると将来の夢はあまり見えません。「や」という助詞は強い切字。

③ よみがえる牡鹿半島初茜

初茜は元日の日の昇る寸前の茜色の空、11年前の大災害のことが頭をよぎります。❖

◆ 水無瀬メン

今日の世界は多事多難で有ります。誰が平和を守ってくれるのでしょうか。主の恵みに於いて平和が守られる事を御言葉は伝えていきます。希望と望みを持って前進したいと願い祈り、選んだ聖句です。❖

* 今月の聖句を選んだことに触れて。（編集子）

◆ 衣笠メン

私の通っているバプテスト浦和教会は1月29日が人事総会になっています。まだ確定ではありませんが、2023年度～2024年度も引き続き、教会役員に用いられるかもしれません。命の源となる聖書の「みことば」を伝えるために用いられること、又埼玉クラブ活動の中においても、いきいきと生きる命のみことばを食べながら、新しい教会の年度である4月から歩み始めたいと願っています。

◆ 伊藤メン

表千家のお点前を習って足かけ8年、ちょっとした緊張感と一服の味が絶妙。畑を借りて手づくりの無農薬野菜。そしていま、埼玉ワイズの集まりがたのしい！つながることで自分を発見している。

◆ 三浦メン

先回の会合は、失礼いたしました。今年は、早私も78歳となります。早いものですが、過ぎてみるとあっという間に年を重ねました。本年は、ウサギ年ですからか、年初めよりいくつかの打ち合わせで出ておりました。会社を縮小しましたので、雑務に追われております。寒波の襲来のおり皆様御自愛下さいますよう祈っております。

第3回東西日本区交流会

日程：2023年2月4日(土)～5日(日)

会場：神戸全日空ホテル・神戸YMCA

* 今回はロータリークラブ、ライオンズクラブなどからも参加者を招いた奉仕団体間の交流が新しい企画のようです。ワイズの良さをアピールしたいですね。

◆ 国際本部からの緊急ニュース

今月17日に今期国際会長だったサミュエル氏（インド）が任期半ばで退任され、その結果、次期国際会長のU・ラウリドセン氏（デンマーク）が新国際会長に就任。新会長主題は「輝かそう、あなたの光を」、スローガンは「良きコミュニケーションこそ全ての協力関係の基」

Men's FOTO Gallery

中村哲医師と私たち一家がペシャワールに到着したのは同じ1984年の春。日本人留学生を介して間もなく親しくなった。アフガン料理は辛くなく実にうまかった。数ヶ月してご家族も到着した。

毎週の地方出張では色々な発見があった。下の写真はアヘン原料のケシの畑。農家の微々たる収入と末端価格の格差に驚いた。（浅羽メン）



1985年、中村哲医師と浅羽一家。ペシャワール旧市街のアフガン料理店で。食べ残しサラダはボールに戻して次の客へ。（食品ロスを減らし、客の自覚を促す効果？）



アフガン国境の某地域。ケシ栽培は公然。人々の生活が貧しい証拠。国連とパキスタン政府の様々なプロジェクトもなかなか功を奏せず。需要供給の原理のとおり。

1月統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
よる談会 (1/16)	6	3	3
特別例会 (1/28)			